



2014 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 最終戦  
第46回MFJグランプリ  
スーパーバイクレース in 鈴鹿

TOHO Racing with MORIWAKI

JSB1000クラス

#104 山口 辰也 予選：RACE1 7番手 (2' 20"639) ・ RACE2 2番手 (2' 19"862)

決勝：RACE1 3位 ・ RACE2 4位

シリーズランキング：4位

TOHO Racing Powered by MORIWAKI

ST600クラス

#104 國川 浩道 予選：10番手 (2' 27"390) 決勝：31位

シリーズランキング：11位

#16 宮嶋佳毅 予選：17番手 (2' 29"556) 決勝：14位

シリーズランキング：17位

---

11月1日(土曜日) 天候：雨 路面：ウエット

公式予選

11月2日(日曜日) 天候：曇りのち雨 路面：ドライ・ウエット

決勝

開催地：三重県 鈴鹿サーキット (1周=5.821km)

入場者数：20,500人 (土・日合計)

ついに2014年シーズンの最終戦を迎えた全日本ロードレース選手権。前戦で約2年振りに表彰台に上がった山口は、表彰台はもちろん、優勝することも視野に入れて鈴鹿入りした。

木曜日に特別スポーツ走行があり、一日早くレースウイークがスタート。前回、変更したスイングアームは、鈴鹿8耐などでの実績から元に戻して走行を始めた。目標タイムは2分06秒台に入れることだったが初日は2分08秒394をベストに初日は6番手につけた。金曜日の1本目は雨が少しだけ落ちてくるものの、ほぼドライコンディション。ここでタイムを2分08秒132まで縮め2番手につける。午後の2本目はウエットとなり、ここでも3番手と、まずまずのフィーリングだった。この時点で土曜日の天気は雨となる可能性が濃厚だったためウエットでのセットも準備していた。

土曜日は予報通り雨となりウエットコンディションでのタイムアタックとなった。今回もノックアウト方式で行われたが、2レース制のためQ1でレース1の、Q2でレース2のグリッドが決まる変則ルールだけに、Q1から、そのポジション取りが重要になる。Q1が始まるとマシンをアジャストしながらマシンをセットアップしていき、セッション終盤にタイヤを変えタイムアタックに入る。しかし、ニュータイヤと路面の状況が合わないのか、なかなかタイムを縮められず、Q1でノックアウトされてしまう可能性もあった。最後のアタックで何とか7番手にすべり込んだが、不満の残るポジションとなった。その鬱憤をQ2で晴らすことになる。

10台で争われるQ2では、セッティングを変更し、雨の量が少なくなり徐々にフィーリングもよくなってきたこともあり、最後の最後に2分19秒862を記録し2番手タイムをマーク。ポールポジションとは僅か0.059秒差であり、TOHO RacingでのJSB1000クラス最高位グリッドを獲得した。ST600クラスの國川は、10番手、宮嶋は、17番手となっていた。



決勝日は朝から雲が広がっていたものの雨は降っていなかったが、前日の雨の影響で路面はウエットでウォームアップ走行がスタートする。4クラスのウォームアップ走行があっても完全に乾くことはなく、所々にウエットパッチが残るコンディションで、この日最初のレースとなったST600クラスはスタートした。

難しいコンディションの中、國川と宮嶋は10番手前後を走行。チームメイト同士のバトルもあったが、國川はマシントラブルが発生し、残り1周というところでマシンを止めてしまう。リザルトでは完走扱いとなり31位となっている。一方、宮嶋は14位でゴールしMFJ-GPのボーナスポイント3点を含む10ポイントを加算した。

---

そしてJSB1000クラスのレース1を迎える。ST600クラスと同じくウェット宣言が提示されたため2周減算の13周で争われた。好スタートを見せた山口は、オープニングラップを4番手で終え、トップグループの中でレースを繰り広げていく。コンディションもあり、まだ抑え気味のペースで周回しており、山口も余力を残していた。しかしレース終盤になるとトップの中須賀選手がスパート。これについていきたいところだったが、後方から来た津田選手にかわされてしまう。しかし10周目のシケインで津田選手がオーバーラン。この隙に3番手に上がった山口が、その座を守りきり3位でゴール。2レース連続で表彰台に上がったのだった。

レース2は、ウェットコンディションで争われた。J-GP2クラスで赤旗中断があったこともあり、周回数はされに削られレース2は10周で争われた。フロントロウ予選2番手グリッドからスタートした山口は、何とホールショットを奪いトップに立つ。オープニングラップで2台に抜かれ3番手、2周目にも2台にかわされ5番手までポジションダウン。しかし4周目に前を走っていたライダーがトラブルでストップし4番手、6周目にカワサキの渡辺選手をかわし3番手に上がるが、トップの2台とは差がついてしまっていた。何とか3番手の座を守りたいところだったが7周目に津田選手にかわされ4番手となると、そのまま単独走行となり4位でチェッカーフラッグを受けた。

#### JSB1000ライダー/監督 山口辰也 コメント

「今回のレースは、マシンを1年間セットアップしてきた集大成として、キット車で6秒台を狙いました。初日から良いフィーリングで走ることができ、中古タイヤでもかなりのタイムを出すことが出来たので、とても安定していました。タイヤの選択もバリエーションが増えたので、レースラップと一発タイムの両立を考えながら進めました。予選では雨が降ってしまいましたが、雨でもドライのセットアップでかなり良いフィーリングで走ることが出来たので、予選2回目では2番手タイムで終えることが出来ました。第1レースはウェットパッチが残っていましたが、1周目から全力で走り、トップグループに付いていくことが出来ました。途中で路面温度とタイヤのチョイスが上手く機能しなく、思うようなライディングが出来ずトップから離されましたが、3位で終えることが出来ました。第2レースは完全な雨でしたが、積極的に攻めました。しかし、4位で終えることになりました。ラップタイムと、雨での安定した走りは、セットアップがかなり良い方向にいていたと思えたので、表彰台には立てませんでした。収穫があるレースでした。ランキングも4位で、プライベートチーム、トップで終えることができました。これも、1年間支えてくださったスポンサー皆様のお陰です。ありがとうございました。勝つことは出来ずに終わりましたが、また来年全力で戦っていききたいと思います」



JSB1000チームメカニック 戸井田剛 コメント

「オートポリスからバイクとライダーの調子が少しずつですが良くなり、前戦岡山では表彰台に立つことが出来たので、鈴鹿では6秒台を出し表彰台に上がることを目標としてきました。しかし、レースウィークは天候不順ということもあり、目標の6秒台を出す事は出来ませんでした。ヒート1では表彰台に上がることが出来たのが良かったと思います。また、ヒート2では表彰台に上がることは出来ませんでした。前が見える位置でレースをすることが出来、良い流れでレースシーズンを締めくくることが出来たと思います。この結果、シリーズランキング4位を獲得することが出来ました。スポンサー様各位のお力添え、また応援してくださる皆様のご声援を頂き、無事に2014年シーズンを終了することが出来ました。この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。ご支援、お力添えを誠にありがとうございました」



ST600ライダー 國川浩道 コメント

「今回のレースは予選10位、決勝は思うようにライディングすることが出来なくなってしまい、ピットに戻ることになってしまったりタイヤとなりました。ウィークに入り、今までの集大成としてKYB様と進めてきたセットアップも良い方向性が見えていましたが、決勝は完走出来なかったこと、大変申し訳なく思っています。最終戦を優勝で締め括るため努力してきましたが、それもまだ足りなかったと感じております。今年一年間、多大なるご支援、また応援、本当にありがとうございました。今年度の初優勝もチームや各スポンサー様、ファンの皆様、家族あってのものだと常に感謝しています。チャンピオンシップでは開幕戦で優勝できましたが、第2レースでのエンジンプローなど、なかなか流れを掴めず遅れをとってしまいましたが、1年間で得たものはとてつもなく大きいものだと実感しております。来年度のことはまだ分かりませんが、この経験を糧に頑張ります。今年1年間、本当にありがとうございました」



---

#### ST600チーフメカニック 江口謙 コメント

「この度は、最終戦の鈴鹿にて國川選手のチーフメカニックを担当することになりました。鈴鹿での事前テストが無かったので、他のサーキットにてテスト走行を行ってからのレースウィークでしたが、各自の役割や今までの問題点の傾向の把握と対策が見えてからの鈴鹿入りでしたので、凄く前向きなレースウィークを迎えられました。事前テストにて、前戦までの問題点を1つクリア出来ていたこともあり、次に起こる問題点は予想が出来たので対策をいくつか考えておりました。最終戦はいつもより1日多い木曜日からの走行予定でしたが、週末の天気予報が雨予報でしたので、予報をチェックしながらドライでの確認事項をいくつか用意していました。走り出してから直ぐに新しい問題点が見えてきたので、メーカーの方を交えて対策を考えて変更を繰り返していきました。しかし、ドライで確認しなければならないと考えていたセットが金曜の午後まで出来ず、さらには雨が降りだしてしまい、確認できなくなってしまったところから歯車が狂い始めてしまった様に感じました。フルウェットの予選では、今週の走り出しの問題が改善されず、ドライで確認したかったセットをウェット路面の朝フリーで試して転倒してしまい、決勝は金曜日のドライで走ったセットで挑むもハーフウェットという路面では全く機能せず、ライダーが走行を断念するほどの状態となってしまいました。マシントラブルだと思えるほどの挙動が出たとの事で、現在原因を調べておりますが、まだご報告が出来る原因が見つかっておりません。走行後に現場で調べてマシンチェックをしましたが原因が見つからず、会社に戻りすみずみまでチェックしておりますが、結論に至っていないのが現状です。朝フリーでの転倒が影響してフレームやスイングアームが変形している可能性が残っておりますので、後日機会を設けて実走行にて確認をしたいと思っております。最終戦だけとはいえ、チーフを任されたのに結果を出す事ができなくて関係者の皆様には申し訳ない気持ちでいっぱいです。國川選手、チーム関係者、スポンサー様にはお詫び申し上げます。そして、今シーズン多大なるご支援、ご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。」

#### 総監督 福間勇二 コメント

「JSB1000はシーズンを通し次第に調子が上がり、この最終戦ではその集大成として良いレースをすることが出来たと思います。ST600は今シーズンの締め括りとして良い結果が残せるようチーム一丸となり取り組みましたが残念な結果となりました。スポンサーの皆様には1年間多大なるご支援、ご協力を頂き、無事に今シーズンを終えることが出来ましたことを心より御礼申し上げます。また、TOHO Racingを応援してくださいました皆様、ありがとうございました。これからもチーム一同精一杯精進して参りますので、何卒宜しく願い申し上げます」

株式会社 TOHO

TOHO Racing with MORIWAKI

TOHO Racing Powered by MORIWAKI

担当：野口